

非常持出品を用意しよう

以下にあげたものを参考に、家族構成などに配慮して準備しましょう。

貴重品



現金（10円硬貨があると公衆電話の用に便利）、預貯金通帳、印鑑、免許証、権利証書など。

ラジオ



予備電池は多めに用意。

懐中電灯



予備電池も忘れずに。できれば一人に一つ。

非常食品

（缶切り、栓抜きも忘れずに）

かんぱん、缶詰など火を通さなくても食べられる物。ミネラルウォーター、水筒、紙皿、紙コップ、ナイフなど。

応急医薬品



絆創膏、傷薬、包帯、胃腸薬、鎮痛剤など。

その他



下着、上着などの衣類。タオル、ティッシュ、合羽、ヘルメット、マッチやライターなど。

★避難後の生活必需品として、米（レトルトも便利）やレトルトのおかず、缶詰などの食料品や飲料水（ポリタンクに貯蔵、一人1日3ℓを目安に）、卓上コンロ（ガスボンベ）、毛布や寝袋、バケツ、洗面用具などを用意しておくといでしょう。（3日分程度）

わが家の防災メモ

避難場所

家族の連絡先

氏名	電話(学校・勤務先)	住所

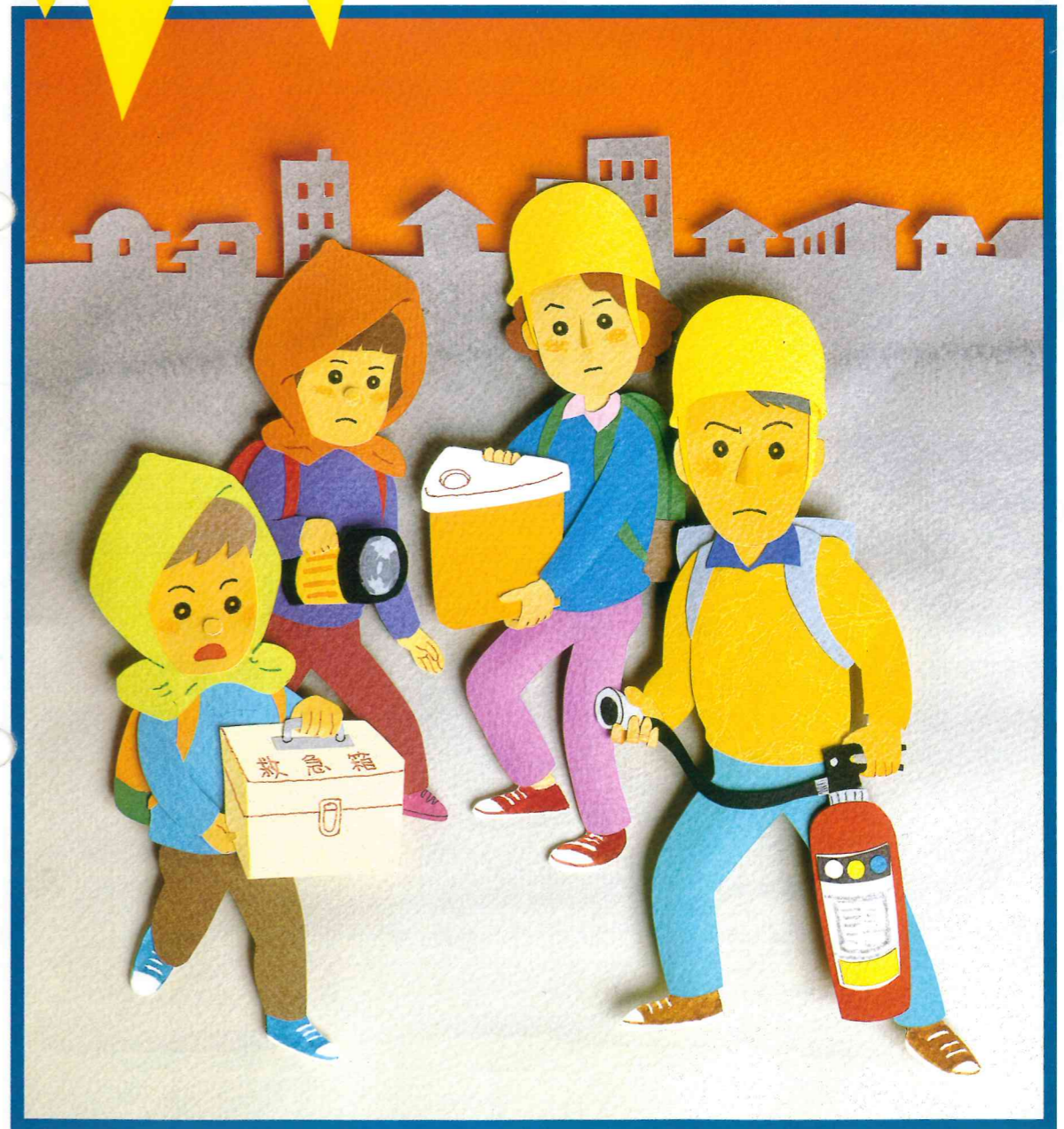
緊急連絡先

連絡先	電話	住所	メモ

大地震に備えて

もしものときの対応マニュアル

監修/文教大学助教授田中淳



●活断層と直下型地震/マグニチュードと震度/大地震からわが家を守る10か条
●兵庫県南部地震発生! 繰り返される地震と被災



災害に強いまちづくりを目指して

金沢市長 山出 保

阪神・淡路大震災は、都市直下型地震がもたらす被害の大きさと怖さを私たちに教えてくれました。

この教訓を生かし、「安全こそ最大の福祉」という考えに立ち、災害に強いまちづくりを進めていかなければならないと思います。

何よりも尊い市民の生命と財産を守るため、消防・救急能力を高め、情報の収集伝達や体系的な避難誘導システムをつくり、防火水槽や用水等の防災水利を整え、ガス・水道などライフラインの確保に万全を期し、緊急連絡道路としての環状道路網の建設を進めるなど総合的な震災対策を積極的に推進していく所存であります。

自然現象である地震は防ぐことはできませんが、日頃からの備えによってその被害を最小限に抑えることが可能です。

市民の皆様には、このパンフレットを参考として、ぜひ地震に対する正しい知識と対処方法を身につけていただきたいと思います。

兵庫県南部地震発生!

兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）は、淡路島北部、深さ20kmを震源とするマグニチュード7.2の直下型大地震で、阪神間や淡路島などの一帯に大きな被害をもたらしました。

家屋の倒壊や火災によって、西宮市から神戸市須磨区までの東西約20km、南北約1～2kmの帯状に連なる地域に被害が集中。家屋倒壊は多数の地域で発生し、約5千5百人の死者の約9割が家屋や家具類の倒壊によって犠牲となっています。

火災による被害も大きく、水道管の破裂や道路の損壊などで消火作業は難航し、火の手はいたる所で拡大しました。

神戸市長田・須磨・兵庫・灘などの各区を中心として、一昼夜にわたって火災が続くなどし、さらに神戸市中央区内では地震発生2日後の新たな出火によって延焼。神戸市内を中心に広範囲な地域が燃えつきてし

地震名	兵庫県南部地震
発生日	1995（平成7）年1月17日
震源	兵庫県淡路島北部 北緯34.36度 東経135.03度
マグニチュード	7.2
主な震度	6＝神戸、洲本 5＝京都、彦根、豊岡 4＝大阪、奈良、徳島、姫路 など
被害地域	兵庫県、大阪府など
死者・不明	5千504人
負傷者	4万1千521人
被害状況	家屋損壊・焼失20万7千283棟

※神戸市・淡路島などの一部では震度7が観測されている。
※「死者・不明・負傷者・被害状況」は'95年5月8日現在、自治省消防庁発表による。

まいりました。

ライフライン（水道、ガス、電気、通信など）も寸断され、都市機能はマヒ。阪神高速道路、一般道、鉄道各線なども各地で損壊しています。神戸市のポートアイランドなどの埋立て地や湾岸部では、液化化現象によるアスファルトのひび割れなども発生しました。

スコップやハンマーの用意 ●生き埋めになった人の救助や復旧用にスコップやハンマーを集会所などに。



繰り返される地震と被災

地震多発国のわが国では、現在まで大地震が起きるたびに被災を繰り返してきました。西暦599（推古7）年、大和で地震によって家屋の倒壊が生じた『日本書紀』に記されているのが、わが国最古の地震被害の記録。ここには最近の主な大地震をまとめました。

過去の大地震

地震名	発生日	マグニチュード	死者・不明	主な被害
三陸はるか沖地震	1994.12.28	7.5	3人	家屋損壊など
北海道東方沖地震	1994.10.4	8.1	0人	家屋損壊など
北海道南西沖地震	1993.7.12	7.8	230人	家屋損壊など
日本海中部地震	1983.5.26	7.7	104人	建物全壊934など
宮城県沖地震	1978.6.12	7.4	28人	住家全壊1千183など
伊豆半島沖地震	1974.5.9	6.9	30人	家屋全壊134など
十勝沖地震	1968.5.16	7.9	52人	建物全壊673など
福井地震	1948.6.28	7.1	3千769人	家屋倒壊3万6千184など
関東大地震	1923.9.1	7.9	14万2千余人	家屋全半壊25万4千余人など

『理科年表』などによる

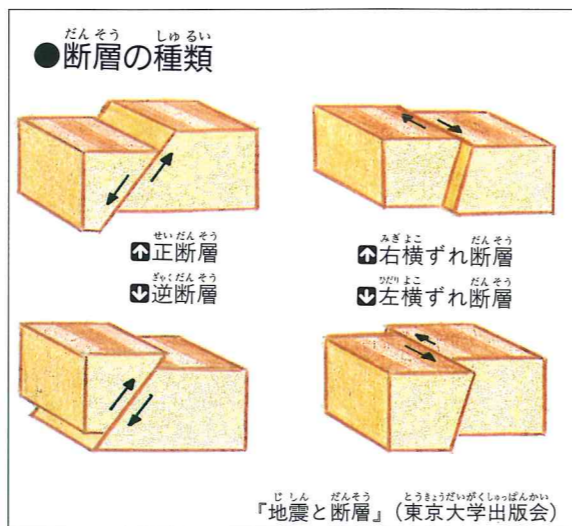
自転車が大活躍 ●被災後、渋滞で動けない車を尻目に食糧調達や情報収集などに自転車が活躍。

●家の内外の安全を確保しよう／災害時の避難は冷静に！／自主防災活動に取り組もう
●活断層と直下型地震／マグニチュードと震度／大地震からわが家を守る10か条
●兵庫県南部地震発生！／繰り返される地震と被災

活断層と直下型地震

地層などに割れ目が生じ、その割れ目に沿って地層などが互いにずれた部分を断層といいますが、中には断層による多くの亀裂が走っています。

断層には最近200万年くらいの間に活動したところのある活断層と呼ばれている断層があります。兵庫県南部地震は、活断層のずれによって起きた地震でした。活断層による地震は、地震自体の規模が小さくても、深度が浅いため、都市直下で起きると大きな被害をもたらすことがあります。



マグニチュードと震度



マグニチュードは地震そのものの「大小」、震度はある場所での揺れの「強さ」をあらわしています。震度はそれぞれの場所での揺れの強さのことで、震源地からの距離などによって異なります。一般的には、マグニチュードが小さくても震源から近くなるほど震度は大きくなります。兵庫県南部地震のマグニチュードは7.2、震源が淡路島北部、深さ20kmの内陸で発生したため、神戸市などで震度7という大きな揺れとなりました。

震度の目安 (気象庁震度階級より要約)

0 無感		地震計に記録されるだけで、人体には感じない。	4 中震		家屋が激しく揺れ、歩行中の人も感じる。不安定な花びんなどが倒れる。
1 微震		地震に敏感な人、静止している人が感じる程度。	5 強震		壁や石垣などが破損したり、家具類などが転倒することがある。
2 軽震		戸や障子がかすかに揺れる。動いている人にはほとんど感じない。	6 烈震		山崩れ、地割れが起こる。多くの人には立ってられない。家屋の倒壊が発生する。
3 弱震		家屋が揺れ、器の水が動く。外にいる人もかなりの人が感じる。	7 激震		家屋の倒壊が多発。断層が生じる。

大地震からわが家を守る10か条

(防災白書などによる)

- ### 1 まずわが身の安全を図れ

なによりも大切なのは命。地震が起きたら、まず第一に身の安全を確保する。
- ### 2 すばやく火の始末 あわてず、さわがず冷静に

「火を消せ!」とみんなで声をかけ合い、調理器具や暖房器具などの火を確実に消す。
- ### 3 ひじょうだっしゅつぐち 非常脱出口を確保する

とくに鉄筋コンクリートの建物内にいるときは、閉めたままだと建物がゆがみ、出入口が開かなくなることがある。
- ### 4 ひがで出たらまず消火

「火事だ!」と大声で叫び、隣近所にも協力を求め初期消火に努める。
- ### 5 そとに逃げるときはあわてずに

外に逃げるときは、瓦やガラスなどの落下物に注意し、落ち着いた行動を。
- ### 6 狭い路地、へい、塀ぎわ、がけかわ 崖や川べりに近寄らない

ブロック塀・門柱・自動販売機などは倒れやすいので要注意。
- ### 7 やまくず 山崩れ、がけくず 津波に注意する

山間部や海岸地帯で地震を感じたら、早めの避難態勢を。
- ### 8 ひなん とほ 避難は徒歩で、もちもの さいしゅうげん 持物は最小限にする

避難場所には徒歩で避難を。車やオートバイは使わない。
- ### 9 みんなが協力し合って 応急救護

お年寄りや身体の不自由な人、けが人などに声をかけ、みんなで助け合う。
- ### 10 ただ 正しい情報をつかみ、よしん おそ 余震を恐れるな

うわさやデマに振り回されない。ラジオやテレビで正しい情報を。

●家の内外の安全を確保しよう／災害時の避難は冷静に！／自主防災活動に取り組もう
●活断層と直下型地震／マグニチュードと震度／大地震からわが家を守る10か条

家の内外の安全を確保しよう

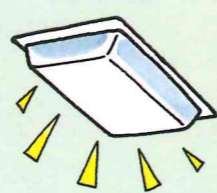
兵庫県南部地震では、家具類や電化製品の倒壊・落下によって大きな被害を出しています。大地震が発生すると、家具類や設置物は凶器になってしまいます。日頃からしっかりと家庭内の安全対策を講じておきましょう。



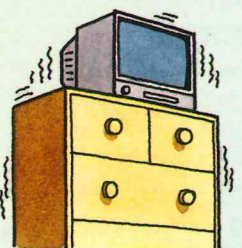
家の中



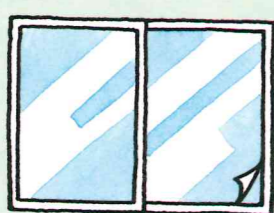
●タンス、食器棚、本棚、冷蔵庫などの大型の家具類には、L型金具などで転倒・移動防止対策をしておく。



●吊り下げ式照明器具は、できれば天井への固定式に。



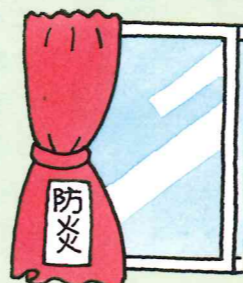
●テレビや水槽などをタンスの上などの高い場所に置かない。



●食器棚やサイドボード、窓などのガラスには、飛散防止フィルムを貼るなど、飛散防止対策を。



●幼児やお年寄り、傷病者などの部屋には、大型の家具類は置かない。家族の安全スペースにもなる。



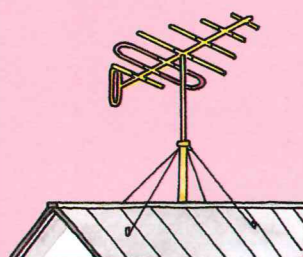
●カーテンやじゅうたんなどはなるべく防災製品を使用する。

家の外

●ブロック塀や石垣、門柱などの点検を。老朽化したものやつくりの不完全なものは補強しておく。



●落下の危険のある植木鉢などはベランダなどに出さない。



●不安定な屋根瓦やアンテナなどは補強する。



●プロパンガスボンベは鎖などでしっかりと固定しておく。



ホイッスルで合図●生き埋めになって脱出できないときなどに居場所を知らせるためのホイッスルを用意する。

災害時の避難は冷静に！

地震が起きてもあわてて避難しない

地震が起きたら、まず身の安全を確保しましょう。市や消防機関などの指示や状況に応じて避難を開始することになります。揺れがおさまったら火元を確認し、ガス栓や水道の蛇口をしめて、いつでも避難できる準備をしておきましょう。



避難のタイミングは？



- 1 初期消火ができず、延焼火災の危険があるとき。
- 2 津波や山崩れ・がけ崩れの危険区域にいるとき。
- 3 市・消防・警察などから避難指示があったとき。

「その時」の備え

避難が必要になったとき、第一に命を守るためにあわてず、次の3つのことを実行しましょう。

- ①それぞれの家庭で、家族の安全を確かめ、家庭や町会でふだんから話し合っておいた所(集合場所)へ行きましょう。
- ②そこにも危険が迫ってきたときは、公園や校庭など、集場所より、より大きな空き地(避難場所)へ移りましょう。
- ③家庭では自衛策として、災害発生時から3日分程度の、持ち運びができる非常食料を用意しておきましょう。

自主防災活動に取り組もう

地域ぐるみで万全な防災体制を

もし兵庫県南部地震のような大地震が再び発生したら…あなたのまちは大丈夫ですか。災害時には、道路事情の悪化などで、自治体や消防機関などによる消火・救援などの活動が十分に機能しないことも予想されます。地域ぐるみによる防災活動や助け合いは、災害を最小限にとどめるばかりか、スムーズな復旧活動にも不可欠です。

日頃から近所同士の交流を深め、いざというときに協力し助け合える地域づくりをめざしましょう。



防災訓練に参加しよう

予期せぬ災害には、「自らの地域は自分たちで守る」という地域社会あげての取り組みが大切です。防災訓練には積極的に参加しましょう。

健康カードを携帯●病気の人は常用薬の名前や服用量、かかりつけ医の連絡先などを記したカードを携帯したい。